

特記仕様書

1. 特記仕様書の適用範囲

この仕様書は「標準仕様書」の第1章1-1及び1-2に定める特記仕様書とし、この仕様書に記載されていない事項は、前記標準仕様書による。

2. 業務内容

(1) 名 称 下川原雨水幹線樋門改築設計業務委託

(2) 位 置 図 別紙位置図のとおり

(3) 委 託 概 要	樋門詳細設計	一式
	報告書作成	一式
	設計協議	一式

(4) 報告書作成 成果品は、報告書、電子データ（CD-R）を提出する。
図面類の電子データについては、CAD（JWW、DWG）及びPDFにて提出する。
その他、提出すべき成果品及びそのまとめ方については、発注者と協議する。

(5) 設計書協議	第1回打ち合わせ	1回
	中間打ち合わせ	3回
	最終打ち合わせ	1回

【業務内容】

① 設計計画

業務の目的・主旨を把握したうえで、設計図書に示す業務内容を確認し、業務計画書を作成する。

② 現地踏査

貸与資料を基に現地踏査を行い、現況施設の状況、予定地周辺の河川の状況、地形、地質、近接構造物及び土地利用状況、河川の利用形態等を把握し、合わせて工事用道路、仮排水路、施工ヤード等の施工の観点から現地状況を把握し整理する。

③ 基本事項の決定

設置目的及び必要とする機能条件を確認・整理し、計画流量、位置、敷高、必要断面、断面形状、長さ、樋管形式、基礎地盤の性状による沈下・変位量、地盤対策工、管材・基礎形式・構造形式、ゲート等に関する基本事項の比較検討を行う。

さらに、詳細設計で決定する事項を整理し、施設、配置計画、断面、基礎地盤の沈下・変位量、地盤対策工及び函材、函軸形式、スパン割り継ぎ手形式を検討する。

④ 基礎工

荷重条件、函体構造形式、地盤対策工等に基づき基礎地盤の沈下を考慮した「弾性床上の梁」の解析等により、相対沈下量、地盤の降伏変位量等について照査し、函体構造および地盤改良工の仕様を検討する。

柔構造の場合は、相対沈下量、地盤の降伏変位量などを算定した上で地盤処理工の仕様を決定する。

⑤ 本体工

躯体、胸壁、翼壁、水叩き、護床工及び沈下・変位・部材応力等の計測工について検討し、安定計算・構造計算を行い。構造詳細図、配筋図等を作成する。

⑥ ゲート工

ゲート扉体の設計を行う。荷重・設計条件に基づき、構造計算を行い、一般図を作成するものとする。

⑦ 施工計画

堤防開削、本堤築造及びそれに伴う仮締切の構造・撤去等の工事の順序と施工法を検討する。

⑧ 仮設構造物設計

施工計画により必要となる仮設構造物（仮締切、仮排水路、工事用道路及び山留工等）の規模、構造諸元を近接構造物への影響を考慮して、水理計算、安定計算及び構造計算により決定し、仮設計画を策定する。

⑨ 数量計算

数量算出要領に基づき、工種別、区間別に数量のとりまとめを行う。

⑩ 照査

下記に示す事項を標準として照査を行う。

- ・設計条件の決定に際し、現地の状況の他、基礎情報を収集、把握しているかの確認を行い、その内容が適切であるかについて照査を行う。
- ・一般図を基に構造物の断面形状、構造形式及び地盤条件と基礎形式の整合が適切にとれているかの確認を行う。
- ・設計方針及び設計手法が適切であるかの確認を行う。また、仮設工法と施工法の確認を行い、施工時の応力についても照査を行う。
- ・設計計算、設計図、数量の正確性、適切性及び整合性に着目し照査を行う。最小鉄筋量等構造細目についても照査を行い、基準との整合性を図る。特に構造物相互の取り扱いについて整合性の照査を行う。

⑪ 報告書作成

設計業務成果概要書、設計計算書等、設計図面、数量計算書、概算工事費、施工計画書、現地踏査結果等のとりまとめを行い、報告書を作成する。